

## 平成29年第9回花巻市教育委員会議（定例会）議事録

### 1. 開催日時

開会 平成29年8月24日（木） 午後3時00分

閉会 平成29年8月24日（木） 午後4時55分

### 2. 開催場所

花巻市役所石鳥谷総合支所 3-2、3-3会議室

### 3. 出席委員（5名）

委員 照井 善耕（委員長）

委員 中村 弘樹

委員 役重 眞喜子

委員 伊藤 明子

委員 佐藤 勝（教育長）

### 4. 説明のため出席した職員

教育部長 布臺 一郎

教育企画課長 岩間 裕子

小中学校課長 沼田 弘二

こども課長補佐 松原 弘明

文化財課長 酒井 宗孝

### 5. 書記

教育企画課 課長補佐 佐々木英智 係長 大竹誠治

上席主任 佐々木晶子（書記）

○照井善耕委員長 おはようございます。只今から、平成29年第9回花巻市教育委員会議定例会を開会します。会議の日時、平成29年8月24日、午後3時00分、会議の場所、石鳥谷総合支所3-2、3-3会議室。日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることにご異議ありませんか。異議なしと認め、本日一日と決定いたします。

日程第2、議事に入ります。議案第23号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関し議決を求めることについて」を議題といたします。事務局から提案内容の説明を求めます。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 議案第23号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関し議決を求めることについて」をご説明申し上げます。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、教育委員会は、その権限に属する

事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととなっておりますことから、本委員会におきまして議決を求めるものであります。なお、この点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされておりますことから、去る8月4日に開催いたしました花巻市教育振興審議会に、花巻市教育振興基本計画に基づく平成28年度主要事業の実施状況についてお諮りし、委員からご意見等をいただき点検・評価を行ったところであります。点検・評価の結果につきましては、別紙「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書」のとおりであります。

以下、内容を説明いたします。お手元に配布しております、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書の1ページ目をご覧くださいと思います。今、ご説明申し上げました根拠法令の説明がございます。

花巻市教育振興基本計画では「子育て環境の充実」「学校教育の充実」「生涯学習の推進」「スポーツの振興」「芸術文化の振興」以上、5つの政策分野がございますけれども、このうち教育委員会で責任を持っている分野が「子育て環境の充実」「学校教育の充実」「芸術文化の振興」ということで今回お諮りするはこの3つの政策分野でございます。なお、「生涯学習の推進」、「スポーツの振興」、「芸術文化の振興」の一部については生涯学習部で責任をもっている分野でございます。

それでは、具体的に各事業の説明に移ります。2ページをご覧ください。子育て環境の充実でございます。基本方針としましては「子育てに喜びを感じ、安心して、穏やかな成長を育むまち」でございます。これに3つの施策の領域がございます。基本方針の下に施策の概要を載せておりますけれども、子育て支援の充実、家庭の教育力の向上、就学前保育・教育の充実の他に、平成28年度は公立保育園3園の民営化がございましたので、「保育教育環境の充実」を追加いたしました。

各事業の説明に移ります。(1) 子育て支援の充実でございます。No.1の地域子育て支援センター事業でございますけれども、これは地域子育て支援拠点として市内6か所に地域子育て支援センターを設置しているものでございます。決算額4,214万5,000円でございます。No.2の子育て支援情報ネットワーク事業でございますが、これは地域子育て支援拠点であるこどもセンターにおいて、地域の子育て支援活動団体、子育て支援関係者との情報交換や、その他さまざまな事業と連携して研修の開催や地域支援を行う事業でございます。これはゼロ予算事業でございますので、決算額は0円でございます。No.3の放課後子供教室・学童クラブは、いわゆる学童クラブの設置に関する事業費でございます。1億8,133万3,000円の決算額でございます。No.4の第3子以降保育料等負担軽減事業は保育料負担を軽減する事業でございます。決算額は3,078万8,000円でございます。

3ページに移ります。(2) 家庭教育力の向上でございます。No.1の家庭教育力向上事業は、教育の原点である家庭の教育力向上のため、市内保育園・幼稚園・認定こども園・小学校、保護者、行政の代表者による就学前教育振興会議で課題を共有しながら、情報提供等を行うものでございます。また、家庭でのニコニコチャレンジ事業やニコニコ先生体験の実施もしております。決算額30万円でございます。No.2の家庭教育力向上事業は、保

育園・幼稚園・認定こども園から小学校へと繋がる子どもの発達や学びの連続性を考慮し、人と関わる力や、道徳心、豊かな感性を培う保育・教育が展開されるよう研修会等を開催するものでございます。決算額13万4,000円でございます。

(3) 就学前教育の充実でございます。No.1のはなまき保幼一体研修事業は、市内保育園、幼稚園、認定こども園の職員が連携して子どもの発達や学びの連続性を考慮した研修を実施するものでございます。決算額13万4,000円でございます。No.2のニコニコ元気っ子事業は、運動嫌いや肥満傾向の子供の増加を防ぐため、保育・教育における運動機会を確保して健全な心身の発達を促すための事業費でございます。決算額は42万円でございます。No.3の幼稚園教育環境充実事業は、快適な教育環境を維持するため公立幼稚園の施設について計画的に改修及び補修を行う。併せて、私学の運営補助及び保護者の経済的負担を軽減し、市内の幼児教育の充実を図るものでございます。決算額は1億468万6,000円。No.4の保育所保育環境充実事業は、公立保育園の施設について快適な保育環境を維持するため計画的に改修及び補修を行う事業費でございます。決算額1,262万2,000円でございます。No.5の幼児ことばの教室事業は、就学前のことばの発達に遅れ等の見られる幼児の早期発見及び指導により幼児期から小学校入学後にわたる一貫した言語指導を行う事業費でございます。決算額は716万円でございます。No.6のこども発達相談センター整備事業は、老朽化が進んでいるこども発達相談センターの新築整備のため平成28年度は改築工事の実施設計を行ったものでございます。決算額1,419万1,000円。No.7の公立保育園再編事業は地域ごとの保育需要の偏在や多様な保育ニーズに対応するとともに、市の人材や財源を適切に配置して質の高い保育を継続的に提供するため、平成28年度は公立保育園3園を民営化したものであります。決算額は976万1,000円でございます。成果指標は示しているとおりでございます。

続きまして、2. 学校教育の充実に移ります。5ページをご覧ください。基本方針として、「子どもたちが、夢と希望を持ち、たくましく、いきいきと育つまち」を掲げております。概要といたしましては、1つ目が児童生徒の学力・体力向上、2つ目が豊かな人間性の育成、3つ目に特別支援体制の充実がございまして。

事業の説明に移ります。(1) 学力の向上でございます。No.1の学力向上推進事業は、児童生徒の学力向上のため、きめ細やかな指導充実と教員の資質向上を行うことで、はなまき授業サポーター、中学サポーター等の職員の配置にかかる経費でございます。決算額1,189万5,000円でございます。No.2のまなび交流学習事業は、児童の発達段階に応じた学びの場の提供のため、複式学級に在籍する児童に対し実技教科の適切な集団指導体験を行うことで、小規模校と中規模校間で音楽、体育、総合的な学習の交流学習を支援しております。決算額は30万9,000円でございます。No.3の指導運営費は、教育研究所の設置に係る経費でございます。938万6,000円の決算額でございます。No.4の教科用図書採択事業は、4年に1度行われる教科用図書の採択に伴う事務費等に係る負担金の支出や教師用教科書及び指導書を購入・配布するための経費であります。決算額は1,014万3,000円でございます。

(2) 体力の向上でございます。No.1の体力向上実践推進事業は、児童生徒の基礎体力の向上のため実践校を指定し、取り組みを支援したものであります。32万5,000円

の決算額であります。No.2の小中学校スポーツ振興事業は、児童生徒のスポーツ活動の振興・発展のための事業を支援するもので425万円の決算額であります。

(3) 豊かな人間性の育成でございます。No.1の児童・生徒表彰事業は、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成のため児童生徒を表彰するものであります。昨年度は児童186人と19団体を表彰しました。決算額は53万6,000円でございます。No.2の生徒会ボランティア活動支援事業は、中学生によりボランティア活動を支援し、中学生の社会参画意識を高めるためのものであります。48万円の決算額であります。No.3の復興教育学校支援事業は、東日本大震災からの復興・発展を支える児童生徒の育成のため支援を行ったものであります。64万1,000円の決算額であります。No.4の地域体験型学習事業は、総合的な学習の時間等を利用して、体験学習、問題解決学習、勤労体験学習、伝統活動学習など、地域社会や児童の特性を生かした体験的学習活動により、児童・生徒の自ら学び、考える力を育み「生きる力」を育成するための事業であります。小学校の農作物栽培体験でありますとか、味噌づくり体験、中学校では、ワイン造り体験を行っております。574万9,000円の決算額でございます。No.5とNo.6につきましては小学生と中学生のための国際化教育推進事業で、No.5につきましては841万3,000円、No.6につきましては1,205万3,000円の決算額でございます。

(4) 個に応じた支援体制の充実でございます。No.1の特別支援事業は、特別な支援を必要とする児童生徒に対する生活・学習支援や、不登校・不登校傾向にある児童生徒への登校支援を行うことで、ふれあい共育推進員の配置等の事業であります。6,054万1,000円の決算額であります。

(5) 学校保健の充実でございます。No.1の学校保健事業は、学校保健管理、学校医等の確保、検診の実施、学校保健会へ補助金交付の事業で5,974万5,000円の決算額であります。

(6) 教育環境の充実でございます。No.1の小中学校学区再編成等調査事業では、児童生徒の減少等、現状を把握していただくため、資料「児童生徒数の推移と今後の見通し」を市議会議員、区長、コミュニティ会議代表者、小中学校長及びPTA会長に提供して、将来的な教育環境のあり方について市民とともに考える機運を醸成しました。また、有識者により「保育教育環境検討会議」及び市民ワークショップ「未来創造知恵出し会議」を開催し、望ましい教育環境について議論を深めたものであります。18万6,000円の決算額であります。No.2の私立高校振興事業は、花巻東高校の経営健全化及び教育環境整備充実のための補助を行ったものです。324万円の決算額であります。No.3の県立大迫高等学校生徒確保対策協議会事業補助金は、大迫高校の存続に取り組む団体を財政面で支援するとともに大迫総合支所と連携し団体の活動をサポートしたものです。108万1,000円の決算額であります。No.4とNo.5の施設維持事業は小学校及び中学校の学習環境と安全・安心な学校経営のため、施設の維持管理・長寿命化を図るための事業になります。小学校については2億5,864万円、中学校は5,721万3,000円の決算額であります。No.6の湯口中学校校舎改築事業は、老朽化した湯口中学校校舎の安全確保のため改築整備したものであります。8億3,846万円の決算額であります。No.7の大迫中学校校舎改築事業は、大迫中学校校舎の安全確保のため改築整備したものであります。5億3

62万3,000円の決算額であります。No.8の学校安全確保事業では、児童生徒の登下校中の安全確保のためにスクールガードやリーダーによる巡回指導を行っております。47万9,000円の決算額であります。No.9の育英事業は、経済的理由により就学が困難な学生に対して学資の貸与を行うものであります。295万2,000円の決算額であります。No.10の学校給食施設基本方針策定事業は、花巻市の学校給食施設をはじめとした学校給食の現状と課題を整理して今後の学校給食のあり方について基本方針の策定に向け情報収集を行ったものであります。1億4,655万9,000円の決算額であります。No.11の学校給食センター整備事業（仮称）大迫学校給食センター整備事業は、条例が改正されて現在は仮称がとれていますが、大迫中学校の改築に合わせて学校給食センターの建設を開始したものであります。1億4,655万9,000円の決算額でございます。No.12の奨学金活用人材確保支援事業は、市奨学金の返還者に対して返還金の半額を補助することで人材の確保を行うもので、市内保育園で勤務する保育士の奨学金の返還の半額補助、それから、富士大学を卒業後に市内に居住している者の返還金の半額補助でございます。34万6,000円の決算額であります。No.13の学校地域連携推進事業は学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てるため、家庭・地域との連携による学校経営を推進するもので、運営委員会の設置、それから、2つの中学校区で地域コーディネーターを配置して地域と学校の連携・協働を支援したものであります。222万3,000円の決算額であります。成果指標は、岩手県学習定着度状況調査の数値です。

5. 芸術文化の振興に移ります。基本方針は「市民が、地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しむまち」でございます。概要の1つ目は文化財の保護と活用、2つ目は民俗芸能の伝承支援となっております。

(1) 芸術文化活動の推進でございます。No.1の学校文化活動事業は、児童生徒の豊かな情操を養うため市内小中学校文化活動の支援を行うものでありまして、中学校文化連盟事業への補助、それから、市内小中学校文化部等の大会出場経費の一部補助でございます。決算額は61万円でございます。

(2) 民俗芸能の伝承でございます。No.1の民俗芸能伝承支援事業は、地域の財産である郷土芸能を後世に引き継いでいくため鑑賞会等を開催し、伝承活動成果の発表の場を提供。また、ホームページ等を活用して、民俗文化財の公演・公開に関する情報を提供し、普及啓発と後継者育成を支援するものでございます。決算額は231万1,000円でございます。No.2の全国神楽大会ハヤチネ2016ですが、国重要無形民俗文化財に早池峰神楽が指定されて40周年を記念し開催。県内を始め全国に継承されている著名な神楽団体や早池峰岳神楽に縁があるインドネシアバリ島のバロンダンスを招き開催したものであります。これは、文化財課と大迫総合支所で担当しましたが、決算額は650万円でございます。

(4) 文化財の保護と活用でございます。No.1の文化財保護活用事業は、文化財を価値あるものとして後世に伝え保護していくため文化財の管理・修繕・補助等を行うとともに、市民への周知を図るため、説明板の設置やセミナー等を開催し文化財の活用を図るものであります。1,529万2,000円の決算額であります。No.2の文化財保護活用事業は、熊谷家改修事業であります。市有形文化財「熊谷家」を改修したところであります。昨

年度は基礎・屋根の修復調査、設計、地盤補強工事を行いました。1, 088万6, 000円の決算額でございます。No.3の文化財保護活用事業は、具体的には花巻城三の丸にあります伊藤家の取得保存事業であります。2, 244万2, 000円の決算額であります。No.4の埋蔵文化財保護活用事業は、埋蔵文化財を適切に保護するため遺跡の調査等を行うとともに、花巻城跡の調査を通じてその保存のあり方を検討するものであります。決算額は5, 105万5, 000円でございます。No.5は再掲でありまして、全国神楽大会ハヤチネ2016は650万円であります。No.6の展示活動事業は、展覧会の開催によって歴史的資料や美術作品を紹介するもので、博物館でのテーマ展が4回、特別展1回、共同企画展1回ということで、788万6, 000円の決算額です。No.7の教育普及活動事業は、市内小中学校の児童生徒に博物館での学習を通じて、ふるさとの歴史文化への興味と感心を深め郷土を愛する心を養うもので、教育普及活動や博物館講座、出前講座等々開催したものです。186万7, 000円の決算額でございます。成果指標は、まちづくり市民アンケートの郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合を載せました。

続きまして、施設の利用状況の報告に移ります。花巻市総合文化財センター利用状況ですが、平成27年度と平成28年度を比べますと開館日数は同じですけれども入館者数が2, 514人増えています。これは、先ほど説明しました全国神楽大会ハヤチネ2016の開催の時に無料としたため利用者が増えたものでございます。大迫郷土文化保存伝習館利用状況ですが、こちらは平成27年度と平成28年度の比較ではマイナス104人となっております。石鳥谷農業伝承館利用状況も増減でみますとマイナス144人です。花巻市博物館利用状況については増減では752人の増となっております。石鳥谷歴史民俗資料館利用状況の増減は40人の減。東和ふるさと歴史資料館については平成27年度から休館しているものであります。

続きまして、各小学校、中学校の学校開放事業の内容でございます。小学校、中学校、それぞれ比較増減の欄をみますと開放回数、利用者数いずれも増加傾向となっております。小学校では開放回数82回の増、利用者数は164人の増。中学校では121回の開放回数の増、804人の利用者数の増ということで、小中合計では、203回の開放回数の増と、利用者数は968人の増という結果になっております。以上で説明を終わりますが、よろしくご審議のうえ、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。只今、事務局から説明を受けましたが、何かご質問等ございましたらお願いいたします。役重委員。

○役重眞喜子委員 成果指標をみますと、「子育てしやすいまちとを感じる市民の割合」が5ポイント近く増えていますし、学習定着度状況調査の方も学力の定着以外は実績値として上がっていますよね。そういった面でこの指標を見る限りは非常に良い傾向で動いているんじゃないかなと、皆さんのご努力の賜物だなと思って見たところですよ。そのうえで、全体的なことでお尋ねをしたいのですが、1点目は、教育振興審議会に説明をしているということでしたが、その場でどういったご意見があったのかお尋ねしたいと思います。あと、これは点検及び評価ということですが、評価が入っていないんですね。決算額と施設の利

用回数とか、点検までは入っているのですが、その実績なり数値を教育委員会としてどう評価しているのか同じ施設の利用回数でもプラスの評価なのかあるいはもっと伸びたはずだという評価もありますし、全てにおいてそうですが、自己評価という制度の趣旨からすると、どのように評価しているか無くて良いのか疑問です。そこはどのように考えていらっしゃるのかという2点をお尋ねしたいと思います。

○布臺一郎教育部長 1点目の花巻市教育振興審議会の議論ですけれども、事業がたくさんございますので、もう少し詳しく説明して下さいという質問がございました。例えば、幼稚園教育環境充実事業と保育所保育環境充実事業には差があるのですかとか、それから、学力向上推進事業で配置しているサポーターの先生方について具体的にどういう人なのか、教育免許は持っているのかとか、個々具体の事業の中身についてのご質問がありました。あとは、要望をいくつかいただいておまして、はなまき保幼一体研修事業について、現在、市内保育園・幼稚園・認定こども園の方々の合同研修を行っているけれども、これに学童クラブの先生方も入れてもらえないかというご要望をいただいております。やはり保幼小との連携が学童クラブにとっても大きな課題となっているので、ぜひやってほしいという趣旨のご要望がありました。これにはご意見として参考にさせていただきたいと回答しております。それから、家庭教育力向上事業で、保護者の方の保育士体験があるのですが、未実施の園があるので、できるだけ多くの保護者の方にそういう経験を提供するようにしていただきたいというご要望でした。これは自分の子どもだけではなく、他の子どもを見ることで子育ての視野が広がり非常にプラスになる。そういう評価をいただいているということでご要望をいただきました。あとは、中学校で赤ちゃんとのふれあい体験を行っているのですが、大迫では赤ちゃんが少ない現状がありますので、ふれあい体験ができないということでもあります。地域でばらつきがあるものは提携できるよう配慮してほしいというご意見をいただいております。先ほど役重委員から指標については概ね良い状況になっているという評価をいただいたところですが、一方で委員の方から、ものによっては現時点で最終年度の目標値を上回っているものもあるので、これは指標の設定の仕方をもう少し工夫した方が良いのではないかと、そのようなご意見が出ていました。あと、これも実施計画でのご提言ですが、相模原市の障がい者施設での殺傷事件から1年経過するあたりに委員会を開いたものですから、やはり障がい者をとりまく環境が悪化したと感じているのでそうならないように、障害者差別解消法が施行されている状態でもありますので、子ども達への教育や先生方に対しても、研修、教育を徹底して欲しいというご要望をいただいております。

2点目の評価については、私、1年目なので、作っていただいたものを見て、私なりに理解をして説明をしたのですけれども、確かに役重委員がおっしゃるように、実績値は数値で記録されているのですが、それが良いか悪いか、今後どうしていくのかということろまでは、この報告書では述べられておりませんので、そこは法の趣旨をきちんと理解すると「評価を行う」とありますから、今後、適切に法の趣旨に乗っ取っていく必要があるのかなと、確かにおっしゃるとおり評価については欠けているというのはそのとおり。

○伊藤明子委員 すみませんいいですか。評価というのはご自分達でなさるのですか。それとも他の方に見ていただくことを考えているのですか。なかなか自分の評価はできないですよ。

○布臺一郎教育部長 報告書の1ページにどうしてこれを行うのか根拠法令が出ておりまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第26条が根拠法令になるわけですが、ここで「教育委員会は権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」とありまして、評価を行うのは教育委員会が主体となっていますが、第2項のところで、「評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」とありますので、評価自体は教育委員会ですが、自分達だけではなかなかできないので、知見を活用するという趣旨でございます。それからすると手順を踏んでやっているわけですが、繰り返しになりますけれども、実績の記録はされているけれども評価について十分かというと必ずしもそうでないように見えるということです。

○役重眞喜子委員 他の自治体もこんな感じですか。評価している自治体はないんでしょうかね。

○岩間裕子教育企画課長 他のところとかけ離れたやり方をしているとは思っていないのですが、評価となると市の総合計画の評価を受ける形になっていて、そこに教育部も入っているのが最終的な評価というのは受けているけれども、この法の趣旨でいう評価と言うには弱いだらうなという。本来であればこの部分でも一度自己評価したものを審議会に諮ることをすれば一番完璧なやり方だろうとは確かに思います。

○役重眞喜子委員 膨大な事務を増やす、そういう趣旨ではないことはご理解いただきたいのですが、評価を真面目にやりだしたら、評価項目を作って、評価基準を作って、ABCとかやらなきゃいけなくなるのですけれども必ずしもそういうことではなくて、例えば、事業毎ではなくても、この3本柱に関しての総括というんですかね、どう受け止めて、もっと頑張れるのか、あるいはこれで十分今年は成果が上がったとか、そういう1行でも良いと思うんですけれども、そういった評価はあってしかるべきかなという趣旨でしたので業務はなるべく増やさないようにお願いします。

○布臺一郎教育部長 今、岩間課長から答弁がありましたように、今、色んな事務事業評価が庁内でなされていますので、そういった出来合いのものでも良いと思うのですが、連携をとりながら法の趣旨に乗っ取って、これについても評価をしたという形をとるべきだと思いますので、そこは役重委員のおっしゃるように事務を膨大にするという趣旨ではなくて、法の趣旨に乗っ取ってきちんとしたものを作るように来年まで研究の時間をいただいたうえで、できるだけ法の趣旨に近づけるよう努力をさせていただきたいと思います。

○役重眞喜子委員　お願いします。

○佐藤勝教育長　確かにこれを見ただけでは課題の改善点がはっきりしないということだと思います。審議会の方々についても長く勤めている方で内容に精通している方は的確な指摘があるのですが、なかなか事業自体も分かりにくいということで、もう少し砕いてお話しをして、具体的に今年度はどう変わって、どんな動きがあって、どんなことが課題となって、改善点はこうなっているという補助資料もお示ししながらやっていければもっと適切なご意見をいただけるという気がします。

それから、内部での評価ですけれども、それぞれ事業概要の中であるんですけれども、個々具体の、これは最終的には成果指針には出てこないのですが、各項目での評価なり、課題と改善点が欄外でも示すものがあればもっと分かりやすいと思いますし、当然これを反映したうえで次年度の事業計画なり予算化ということがありますので、そういったこともご報告できるものがあればもっと分かりやすいのかなと思います。いずれ分かりやすく成果と課題をはっきり示すということでは、市全体の様式に捉われないで教育委員会でやれる範囲内でやっていくということで進めたいと思っております。

○照井善耕委員長　今お話しが出ているように、法の趣旨とか、何のためにやっているのかということが一般の人の感覚で分かるようなものがあればいいと思うんです。この場合に、数字を介すると分かるようで分からなくなってしまう。むしろ、この事業を取り入れたら良くなったとか具体的なものを何点か挙げれば、分かりやすい評価につながっていくんじゃないかな。例えば、子ども達にこの学級の平均は去年より2割ぐらい上がっていると言ったって、良くなったって思えるだろうか。その時に前よりこういうことが良くなったとか何か具体的なものがあれば、趣旨も説明の中で明確になるんじゃないかなと思いました。先ほど役重委員からもお話しがあったように、色々考えることで煩わしい部分が増えることにならないようにしながら、なおかつ、せっかく取り組んでいるものが、評価として一般の方々に方向性が見えるようであれば良いと思います。ちょっと工夫してみましょう。我々も色々知恵を出しながらいければ良いと思います。これから先の取り組みとしていきたいと思えます。他にございますか。中村委員。

○中村弘樹委員　成果指針のところですが、平成32年度の計画目標値を出しているのですが、根拠というか、平成28年度より下がっているものもあって、どういうものなんですか。

○岩間裕子教育企画課長　この計画目標値は、あくまでも第2期計画を策定した際に作った目標値であります。そこで、先ほど部長からあったように、審議会の議論の中では、既に超えてしまった部分について見直しも必要ではないかというご指摘もいただいているところです。まちづくり総合計画もそうですが、当初設定した目標値を簡単に変えるということがないので、ここが悩みどころなのかと思っています。計画を立てた時の根拠は、基本的にはまちづくり総合計画の数値とリンクするようにして、現状を最低限維持しなければ

ばならない目標の場合はその数値になっていますし、あるいはアップする、削減するという場合には県とか全国の伸び率を勘案しながら算定した数値となっているのですが、実際に県の学習定着度状況調査は平成28年度に大きく伸びた実績があるので、ここは要検討の事項であるとは思っております。

○佐藤勝教育長 やはり数値を修正して、やりながら目標を変更していく柔軟性も必要な気がしますね。達成されているのであれば下がるよりはさらに高みを目指していく。これは教育委員会だけの問題ではないのですけれども。

○照井善耕委員長 数値だけの問題ではないんだよね。数値が何を表しているか。予想しているより高くなっている要因は何か。数値の設定の問題なのか、数値設定の根拠の問題なのか、ちょっと分析が必要だと思います。

○佐藤勝教育長 数字のマジックですね。低く設定していけば上手くいっているように見えるのですが、実際、現状値と平成32年度が同じでも中身が全く違うわけですね。その辺の実際の状況を示せる資料があれば良いような気がしますけれども。

○照井善耕委員長 数値を設定した時はあまり具体的なイメージとして捉えられなかったようなことも取り組んでいくうちに、数値はあまり大きく動いていないけれども中身が見えるようなものがあると評価に結びついて、ここをもう少し強化しようとか、ここはもうクリアしているからオッケーとか。次に結びつく判断ができそうな気がします。

○佐藤勝教育長 設定するときどうしても基準値を堅くいきたがる。頑張ればもっとという気持ちはあるんですけれども。問題は中身だと思いますけれども、やはり数値化することでその辺の捉え方を研究しなければならないと思います。

○照井善耕委員長 数値の部分で全体の傾向を捉えるというのは必要だと思う。ただ、そこに具体的なものが加わって説明ができるようになっていけば、方向性が間違っていないとか共有できる部分がふえていくんじゃないかと思います。他にございませんか。

就学前教育のはなまき保幼一体研修事業の予算額と決算額に開きがあるように思うんですけど、これは想定したものが行われなかったのですか。

○松原弘明こども課長補佐 当初予定していた研修の講師を内部講師で対応していた状況もございまして、予算には出ていないけれども研修は行っております。あと、県職員の方を講師としてお招きしていましたので、その分も講師謝礼が発生していないことになりました。

○照井善耕委員長 中身を充実させながら、経費は使っていないということですね。わかりました。役重委員。

○役重眞喜子委員 質問いいですか。文化財の保護の活用指標で「郷土の歴史・文化に対する誇りを持つ市民の割合」が2.6ポイント伸びて良いと思うのですが、この65.0%の水準って、まさに評価になっちゃうんですけども、一般的に他の自治体と比べて低いのでしょうか、高いのでしょうか。

○佐藤勝教育長 前の指標が「指定文化財を何か所以上見たか」というものでしたが、それは違ふだろうということで、今回の指標はかなり主観的なことなんですけれども、評価の仕方は市民アンケートなのでこの数字になったところです。ちなみに、前の指標の時は50パーセント以下でした。

○役重眞喜子委員 それは変じゃないかということで変えてくださったんですね。多分65という設定値は現状値との関係で設定はしていると思うのですが、私の記憶する限りでは指標を設定する時に類似自治体とか他との比較をして適切な目標値を設定するものじゃないかと思うのですが、端的に言って8割ぐらいあってもいいのかなと思っただけです。色んな地域に行って聞くと、もう少し高い数字を聞くことがあるので、花巻はもっとあってもいいのにといい意見です。

○佐藤勝教育長 この数字の内訳をみたときに地域的なばらつきが相当あるということで、先ほどの話に戻るのですが数値の内訳なり分析が必要だという気がします。地域的に高いところは高いわけですね。

○役重眞喜子委員 年代とかもあるんでしょうね。

○佐藤勝教育長 例えば、お祭りに出たから良いとする方もいらっしゃるでしょうけれども、本当に好きな方だと保存活動を一生懸命やっても、自分ではまだ低いと思う方もいらっしゃるでしょうし、測ることが非常に難しいし主観的なところもあると思います。他市町の例もまた研究します。

○役重眞喜子委員 文化財の保護活用というアンケートの中で、そういう項目の流れで聞かれると、歴史とか文化財に詳しくないと丸印をつけてはいけないのかなと取ってしまう回答者もいるのかもしれないですね。端的に、花巻って良いところだな、良い町だなと、そういう丸印で良いと思うんですけども。

○佐藤勝教育長 ただ、子ども達の全国学力調査を見ると花巻が抜群に高いのが地域行事への参加です。他のところは60とか70なんですけれども、花巻は85とかすごい数字が出ているんですよ。地域のコミュニティで講座を組んだり、それが学校と連携しているとか、地域行事が多いとか。コミュニティ活動や学校教育、家庭教育が相対的にあって、なかなか物差しのある回答の仕方ではないので、分析によって数値的なものに至るまでの

ものがある程度見えると思いますので。そういった作業も必要だなと思います。65でいいのかと言われると厳しいのですが。概ね3分の2であれば。100であれば一番いいと思います。

○役重眞喜子委員 確かに同じ物差しにはできないんですけど、ある程度、客観的に他と比べた時に自分達の位置がどうなんだろうというのが評価に関しては欠かせない視点だと思うので、今ネットを引けば色々ありますので、そういう視点でも研究していただけないかなと思いました。

○照井善耕委員長 小中学生のふるさとパスポートの活用状況というのは捉えていますか。

○酒井宗孝文化財課長 各施設で活用状況は把握しております。

○照井善耕委員長 それが伸びているのか伸びていないのか。せっかく花巻には文化財がいっぱいあるので今のような問題を考えていく時に、あるものの価値を高めるかとか必要だと思うし、併せて、学校の先生方が花巻の文化財にどれくらい触れているかとか、中身を理解して子ども達と関わっているかとか、そのあたりが教育委員会のメインになるかという感じがするのですが、それはどうなんでしょうか。

○佐藤勝教育長 以前、芸術文化とか生涯学習が教育委員会内にあった時は、その数字をはっきり出していました。そうすると市内の子ども達のどのくらいが使っているとか、まだ足りないとか分析がされていたのですが、今、隙間が生じてしまって、そこがちょっと足りないかなと思います。どちらからでもいいんだけど連携してそこをチェックする必要があると思います。社会教育施設がどう使われているかというフォローは確かに弱いですね。大事だと思いますのでこの後作業してみます。それはできますよね。

○酒井宗孝文化財課長 はい。

○照井善耕委員長 他からお客さんを呼ぶのは大事だけど、今花巻に住んでいる人が地元を語れる、研究者とはまた別の視点で話せることも大事じゃないかな。子ども達に花巻の良さを知らせるには先生方も施設に足を向けて勉強してもらう機会を作ってもいいんじゃないかな。今回、多田等観の企画展も非常に中身が良くて、先生方が知らないのは勿体ないとか、何か充実させる方法があるんじゃないかなと思ったところです。

○佐藤勝教育長 今、博物館で数が増えているのがアウトリーチ、いわゆる出前授業で、延べ180回ぐらい行っています。博物館の職員はものすごく頑張っていますし、それから、博学連携というのが、その根っこなので、先生方と博物館で連携する機会を作っています。あと、市民向けの親子体験講座も定員を上回る状況になっています。こういったアウトリーチをどこの施設でもやっているかといえば決してそうではないんです。これは職

員の人数や中身や量の問題もありますので、それぞれのところで工夫してやっていただくということ。もう一つは個人的な考えですが、発信とか宣伝があまり上手じゃない。良いものはやっているんだけどお客様が来ないことについては厳しく評価していかなければならない。外部に対して営業していくことについて、もっと努力する必要があると思うし、タダで宣伝できるんですよね。例えば、ここまでは作るけれども、これをマスコミにどう流してやるか。いわゆるマスコミを上手く使えばタダで宣伝できるし、FMみたいなものについても効果が高いです。そういったことについて全体で、昔は社会教育機関が全部集まった協議会もあったんですけども、現在はそこが途切れているんですよ、やはり何かの機会に生涯学習と教育委員会とお話ししながらという形が良いと思います。それから、学校の先生方については、花巻に来たらずひ宮沢賢治の勉強をしてほしいなということの話はしているのですが、なかなか難しい、忙しいということなんですけれども、この間、夏休み中に小中学校課の指導主事が実施事業としてふくろう講座というのをやって、一人一講座、先生方の講座をやりました。国語担当はやまなしを題材にして勉強をしたとか、社会科の教員は大迫で発掘現場に行って、総合文化財センターとリンクさせてやったとかしていますし、そのうち複数の講座に参加した先生もいらっしゃいました。校長先生でも、理科の先生がやまなしに参加してくれましたし、そういった働きかけはしているし、やることはやっております。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。それでは、質疑なしということで、質疑を終結いたします。採決いたします。お諮りいたします。議案第23号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関し議決を求めることについて」を原案のとおり決することにご異議ありませんか。異議なしと認め、議案第23号は原案のとおり議決されました。

日程第3、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いします。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 お手元の資料No.1、花巻市教育振興基本計画実施計画案（平成28年度～平成32年度）についてご報告いたします。この実施計画案につきましては、先ほどご決定いただきました内容と重複しているところがございますので、主に新しい事業を中心にご報告をしたいと思います。

4ページをお開きいただきたいと思います。1. 子育て環境の充実、(1) 子育て支援の充実、No.1からNo.4までは継続事業でありますので説明を割愛させていただきます。No.5が新規事業でございます、前回の教育委員会議でもご報告いたしましたけれども、病後児保育事業でございます。7月10日に開設したものでありまして、傷病の回復期にある児童で保護者の都合により家庭で保育困難な児童を一時的に保育するものでございます。今年度の事業費1,347万4,000円を見込んでおります。利用状況については好調であると、こども課から報告を受けております。(2) 家庭教育力の向上については継続事業でありますので説明を割愛させていただきます。(3) 就学前教育の充実でありますけれども、No.5のこども発達相談センター整備事業については、平成28年度は実施設計を行いましたが、今年度から工事に着手しているところであります。事業整備費は1億215

万6,000円でございます。No.6の公立保育園再編事業は、先ほど公立保育園3園の民営化のお話しをいたしましたけれども、今年度から第2期の再編に着手しておりますが、これはソフト事業でございますので、事業費は0でございます。No.7は新規事業でございます、平成30年度の幼稚園教育要領改訂を見据え、改訂のポイントについて理解を深め、教育課程の見直しを行うもので、花巻幼稚園が教育研究課程指定校の指定を受けまして今年度と来年度の2か年実施するものであります。今年度事業に30万1,000円を見込んでいます。

続きまして、2.学校教育の充実の(1)から(5)までは継続事業でございますので説明を割愛させていただきます。(6)教育環境の充実、No.6の湯口中学校校舎改築事業は、平成29年度で完成ということでありまして、今年度の事業費1億7,946万3,000円を見込んでおります。No.7の大迫中学校校舎改築事業につきましては、先日校舎棟が完成したところでありまして、今後、屋内運動場の整備等に入っております。今年度の事業費は5億1,577万9,000円の見込みとなっております。No.11、学校給食センター整備事業のうち大迫学校給食センター整備事業は先日完成をみたところであります。2億4,230万5,000円であります。(仮称)学校給食施設整備事業は小中学校課で検討しておりますけれども、今後策定を予定している学校給食施設基本方針に基づいて今後、数年かけて学校給食施設の整備を行っていくというものでありまして、まだ素案はまとまっておりませんが検討しているところであります。No.14は新規事業でございます。小中連携推進事業は、いわゆる中一ギャップの解消と9年間を見越した学力向上を図るために、小学校と中学校との連携による教育を推進するものであります。今年度の事業費は281万2,000円の見込みです。No.15の学校図書館支援事業も新規事業でありまして、学校図書館の充実をはかるため、学校図書館支援員を配置し、学校図書館の取り組みを支援するもので、これは年度初めに支援員を配置して事業に着手しているものであります。事業費260万円です。

3.生涯学習の推進は生涯学習部の事業になります。(1)生涯学習の充実では、No.1、No.2は生涯学習講座の開催事業、生涯学習をしている方への支援事業。No.3の読書活動推進事業は、乳幼児への絵本の配布や読み聞かせ、読書ボランティア等を対象とした講座の開催などにより、幼児期から一般まで読書週間の定着を図るものでございます。No.4、花巻図書館整備事業は先日パブリックコメントが終わりまして内容が公開されているところですが、順次、生涯学習課で事業を進めることで検討しているところであります。(2)青少年健全育成の推進は、青少年活動推進事業と少年センター運営事業の2事業があります。(3)国際化の推進につきましては、No.1とNo.2は国際交流の推進であります。事業No.3については、神奈川県平塚市、青森県十和田市の国内友好都市の交流推進事業を行うものであります。

4.スポーツの振興、(1)生涯スポーツの推進ということで、No.1の地域スポーツ推進事業は早起きマラソンやスポーツ教室等の開催。No.2の地域スポーツ支援事業は、地域の生涯スポーツの普及や市民の健康増進と体力向上を図るため、市体育協会やスポーツクラブ、各種実行委員会が実施するイベントの開催を支援するものであります。No.3のスポーツ施設環境整備事業は、大規模な大会等に備えるためにスポーツ施設を整備するものであ

ります。No.4は新規事業であります。田瀬湖ボート場環境整備事業ということで、スポーツ合宿等の誘致による交流人口の拡大を図るため、田瀬湖ボート場の艇庫等の改修や整備を行うものであります。(2)競技スポーツの推進、No.1の競技スポーツ支援事業は全国大会等への出場支援を行う内容でありますし、No.2のスポーツ大会・合宿誘致推進事業は逆に、スポーツ大会や合宿の誘致を推進するという事で交流人口の拡大を図るものであります。No.3は新規事業であります。既に事業は成功裏に終わっておりますが、第5回東アジアU-22ハンドボール選手権開催事業を行ったものでございます。

5. 芸術文化の推進、(1) 芸術文化活動の推進の事業No.1からNo.4までは生涯学習課で担当しているものでございます。No.5は小中学校課で担当しております。児童生徒を対象とした文化活動を支援するものでございます。(2) 先人の顕彰であります。宮沢賢治をはじめとする、花巻の先人を顕彰するため各種記念館の運営にかかる経費及び事業が掲載されているところでございます。(4) 文化財の保護と活用、No.2の文化財保護活用事業の熊谷家改修事業でございます。今年度、屋根の葺き替え工事を行いまして、これは先月から事業に着手しまして、今、屋根解体工事に入っているところであります。簡単ではありますが以上、報告とさせていただきます。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。只今の報告について何かご質問はございますか。無いようですので、只今の報告に対する質疑を終結いたします。

次の事項について、事務局から報告をお願いします。酒井文化財課長。

○酒井宗孝文化財課長 国指定天然記念物花輪堤ハナショウブ群落保存管理検討委員会の設置についてご報告いたします。資料No.2をご参照下さい。西宮野目に所在いたします。国指定天然記念物花輪堤ハナショウブ群落につきましては、昨今、周辺環境の変化等様々な要因により、その生育が危ぶまれていることから、現状を調査し保全管理について専門家で検討するため「花輪堤ハナショウブ群落保存管理検討委員会」を平成29年7月4日に設置し、第1回目の会議を8月4日に開催いたしました。

委員の構成及び氏名と所属につきましては、別紙のとおりでございますが、大森鉄雄花巻市文化財保護審議委員、平塚明岩手県立大学教授、平塚先生は岩手県文化財保護審議委員でもあります。竹原明秀岩手大学教授、本城正憲東北農業研究センター畑作園芸研究領域主任研究員、阿部清孝宮野目コミュニティ会議会長の5名でございます。なお、委員長は平塚先生、副委員長には竹原先生をお願いいたしました。また、委員会当日は、オブザーバーとして田中厚志文化庁記念物課文化財調査官、鎌田勉岩手県教育委員会生涯学習文化財課課長、日向磨机子主査の出席をいただいております。

委員会では、まず当課から、これまでの経過・経緯の説明、具体的には周辺環境の変遷と花茎数の変化について報告いたしました。この後に保全管理についての協議を頂き、最後に現地を視察していただきました。

今回のまとめとして、平塚委員長からは、「簡単に解決できない問題が提示された。これまでのデータを再整理する必要性。これは環境のデータとこれまでの管理がどのように行われてきたかのデータを突き合わせながら、改めて検討することが必要である」との意見

をいただきました。また、田中調査官からは、「代表的な原野植物群落であり、ハナショウブのみを対象とするものではなく、生態系全体での保存を考えてほしい」との意見をいただいております。

今後の予定であります。今回の委員会でご指摘頂いた事項を整理し、9月には今年の花茎数の調査を実施したうえで、10月に第2回目の委員会を開催したいと考えております。以上、簡単でございますが、ご報告いたします。

○照井善耕委員長 只今の報告について、質疑のある方はございませんか。

○伊藤明子委員 昔、高校生の時にハナショウブを調べる同好会がありまして、それが色んな高校であったように思うのですが、今はそういうことをしていないもののでしょうか。調査はどういう方々が調査をされているのでしょうか。

○酒井宗孝文化財課長 昭和54年までは花巻南高校の生物部に定期的に調査をやっていたいただいております。専門の先生がおられなくなったことと部員がいないということで、南高校ではこれ以上できないということになりまして、それから定期的な調査は行っておりません。ただ、周辺の圃場整備に伴いまして、県が主導して10年おきに調査に入っております。花茎数といたしましては昭和40年代ですと1万本を超えていましたが、最近では減少傾向にありまして平成23年で1,700本弱でございました。そして、昨年度は800本強と非常に少なくなっており危機的な状況であります。

○伊藤明子委員 一番の原因はやはり環境が変わったということですね。

○酒井宗孝文化財課長 圃場整備に伴いまして、管理された水しか入ってこない、あと、前は地元の方々の協力により草刈りをしていたのですが、この頃はしなくなったということでススキとか笹が繁茂して、結局、生存競争に負けているという状況なそうです。

○佐藤勝教育長 平成9年までに行った調査に基づいて診断してもらって、その方向でずっとやってきたのですが、お話しがありましたように植生が変わったことと、水の状況が変わったことで、ここ数年あまり芳しくない状況です。文化財課の職員も色々調べて作業をしているのですが、方向的に違うんじゃないかということで、ここでもう一回専門家の方にみていただいて、いつもはすぐ終わっちゃうんですけども、長期的にやっていくことと、地元の方の協力をいただくことでスタートしたところでございます。

副委員長の竹原先生は50年代の調査、それから平成に入ってから調査とずっと関わられている方ですので、そういった先生も入っていただいて長期的なスパンでこれからやっていくということです。いずれ、国指定でノハナショウブの群落というのは3つしかなく、その北限がここだということで、地元はもちろんですが、宮野目小学校、中学校でも地元になんかすごいものがあるんだよということを周知しながら、子ども達にも関心を持ってもらいたいと思っています。

○伊藤明子委員 大切なものだという事はピンと来ていないと思いますよね。私達もですけれども、一体何だろうと思って生物部が調査に行くのを見ていましたから。

○佐藤勝教育長 電車からも見えなくなっていましたね。そこは入ってはいけないという考え方で来ておまして、真ん中に堤があるものですから子どもが落ちたらどうするんだと、そういうこともあってロープを張っているんです。そうすると中は茂みになってしまっていて空気も通らないわけですし、ノハナショウブが嬉しいような、ほどほどに水があったり乾いたり、そうでなくなってきたらだろうなということで、根本的に手法を見直していただくということですが、専門じゃないと分からないものですから先生方に入ってもらっています。

○伊藤明子委員 南高校がだめであれば、そばなので、農業高校の生徒さんに行っていたことはできないのでしょうか。

○佐藤勝教育長 農業高校にもお願いしたのですが難しいということでした。花巻の植物の愛好家とか、そういうところにもだんだんに声をかけていきたいと思います。

○伊藤明子委員 逆に外の方が覚えていることも多いですよね。例えば、材木町公園に馬面電車ってありますよね。皆が写真を撮っていて、何でと思ったのですが、珍しいんですってね。貴重なんだそうですもんね。そういう意味ではここも知らない人が多いんじゃないかと。でも、1万本から800本だったら、10分の1以下ですもんね。農業のことだから仕方ないけれども、圃場整備をすると環境が変わってしまって、どじょうとかもいなくなると聞いたことがあるので、そこも考えながらやらなければいけないと思いつつ。どこまでできるかわかりませんが、まずはよろしく願いいたします。

○照井善耕委員長 これはハナショウブそのものが貴重なのですか。群落が貴重なのですか。ノハナショウブ自体はどこでもあるということですか。

○佐藤勝教育長 ないです。ノハナショウブの中でもあそこは群落としての魅力があって、そして、色のバリエーションがあるんだそうです。そういったものがこの地にあること自体が珍しいんだそうです。もちろん群落ですからハナショウブだけで生息している訳ではなくて、関連する植生や生態系があるということでした。ただ、ハナショウブの種だけ採って植えれば良いかといえばそうではないということです。

○照井善耕委員長 環境そのものも大事な訳ですね。結局、我々自身もそういうところを捉えておかないと。あと、この花輪堤というのは堤の名前ですか。

○佐藤勝教育長 そうです。あそこは花輪堤という地名というか呼称です。

○照井善耕委員長　ここは誰が所有しているのですか。

○佐藤勝教育長　市有地です。

○伊藤明子委員　50年代で終わっていたんですね。以前調査していたときは記録を取っていたわけですね。

○酒井宗孝文化財課長　はい。それから青年会の人達が草刈りをしたり、野焼きまでしてくれていました。

○佐藤勝教育長　指定されたのが昭和10年ですから。

○照井善耕委員長　じっくり時間をかけてということですね。ありがとうございました。質疑を打切ってよろしいでしょうか。報告に対する質疑を終結します。それでは、本日の議事日程はすべて終了します。ありがとうございました。